

学生インターンが大活躍

碓 知子

日本でもインターンシップが盛んになってきたと聞きますが、シンガポールは以前から学生のインターンシップが盛んです。ポリテクニクと呼ばれる高等専門学校では、1学期をインターンシップに充てるところも少なくありません。私がお手伝いしている、学生イベントの運営会社（Youth Ambassadors-YA）でも、現在10人のインターンが働いていて、オペレーション、マーケティング、営業支援と様々な分野で活躍しています。

今回は、活躍する学生インターンについてご紹介します。



＜学校のカリキュラムの一環＞

シンガポールの大学やポリテクニクには、インターンシップをコーディネートする部署があり、インターン採用希望の企業と学生の間を取り持つ他、学生に履歴書の書き方も指導しています。インターンシップ先の紹介ポータルも各学校にあり、学生はその中から関心がある職場を探すこともできますし、自力で働きたい会社にアプローチしてインターン先を決めることも可能です。企業側は、学校の当該部門に採用したいインターンの人数、専門分野、必要なスキル、待遇等をポータルに掲載してもらい、応募してきた学生をインタビューします。

インターンシップの期間は学校や学部によって異なりますが、2カ月から長ければ5カ月。個人差はありますが、総じてPCのスキルは高く、知らないことでも学ぶのは早いので、戦力として活躍してくれます。

＜休暇はインターンシップ＞

大学入学前のインターンもあります。シンガポールでは高校の卒業試験であるAレベル試験が12月に終わり、翌7月又は8月の大学の始まりまで、約半年の休みになります。男子学生はAレベル試験後、大学入学前に2年の兵役があり、女子学生が中心ですが、多くの学生たちがこの大学入学前の半年を、インターンシップに充てています。

一つの会社でインターンすることもあれば、数ヶ月ごとに違う会社を経験する学生もいます。高校を卒業したての時には、まだ何を大学で専攻していいかわからない時期。

日本のように、高校卒業前に何学部を受験するか決めなければならないのとは違い、シンガポールではAレベル試験は全国共通で、その結果で入れる学校、学部が異なります。

学生達は試験結果を待ちながら、じっくりと、進みたい学部を考えることができます。その際に役立つのがインターンシップ。

昨年、「YAでのインターンを通じて、直接人助けにつながる仕事がしたいと思った」と言っていた女子学生は、医学部を志願。Aレベルの成績もよかったので、無事シンガポール国立大医学部に入学。将来は国境なき医師団のような仕事もしたいと意欲的です。

＜海外インターンシップも奨励＞

グローバル化が進む中、卒業後に海外で働く機会も増えています。かつては居心地のいいシンガポールから離れたくない人も多かったのですが、外資系企業もシンガポール企業も海外でのオペレーションが増える中、そう甘いことを言っている訳にはいきません。

学生のうちから海外経験してもらおうと、国際企業庁では海外インターンを目指す学生に12,000シンガポールドル（約99万円）の奨学金を出しています。シンガポールの学生は、英語は話せますが、行き先の多くは東南アジア諸国。異なる言語、文化、慣習の中での経験には得るものも多いでしょう。※

＜企業から見たメリット＞

学生インターンといっても、何を頼んでいいかわからない、と躊躇する企業も多いかもしれませんが、企業から見ても学生の人柄、能力を数カ月にわたって見るよいチャンス。YAのインターン男子学生は、大学1年生ですが、米国系ベンチャー企業のインターン先から既に内定を獲得。本人もやりがいを感じており、入社する、と話していました。

日本には内向きの学生が増えていると聞きますが、これからの就職戦線はグローバル競争。シンガポールの学生に負けないスキル、異文化を受け入れる柔軟性を若いうちから身につけてもらえるといいと思います。